

青谷かみじち遺跡

NEWS

Vol. **10**
2019 Spring

発行：鳥取県埋蔵文化財センター
青谷調査室

〒 689-0952
鳥取市青谷町青谷 667
鳥取市青谷町総合支所 2F
電話 0857-85-5011



今年度は、新しい職員が加わり9人で、史跡青谷上寺地遺跡の発掘調査や出土品の研究、遺跡を整備・活用する仕事をします！どうぞよろしくお願ひします。

こんにちはー青谷調査室です

青谷上寺地遺跡出土品

祝！重要文化財指定決定

3月18日に開かれた国の文化審議会において、青谷上寺地遺跡の出土品のうち、1353点を重要文化財に指定するよう、文部科学大臣へ答申がありました。

指定される品々は、青谷上寺地遺跡の特徴をなす精巧な木製の容器をはじめ、日本海を通じた交易により入手された鉄器や青銅器など、多彩で豊富な内容を含んでいます。

これらの出土品が示す高度なものづくりの技術や、各地との積極的な交流は、「弥生時代のムラ＝農村」という従来のイメージを覆すものとして高く評価されました。

今後、東京国立博物館での展示（4月16日～5月6日）の後、鳥取県立博物館で「重要文化財指定記念速報展」（6月16日～6月30日）としてお披露目展示します。この機会にぜひ実物の美しさを間近でご覧ください。



青谷上寺地遺跡出土の重要文化財指定品（一部）

令和元年度第18次発掘調査開始します！

海に向かって築かれた遺構の正体は？

令和元年5月中旬より、第18次発掘調査を開始します。

2カ年計画で実施している第18次発掘調査は、※中心域とその北側に広がっていた海（古青谷湾）との境界部分の様子を探る目的で、中心域推定部分の北側を調査しています。

調査1年目の昨年度発掘調査では、弥生時代終末期（約1800年前）に、板や杭・矢板等で補強された土手状遺構や溝状遺構などが海に向かって築かれている様子が確認されました。

当地区の2年目となる今年度の調査では、それらの遺構をより詳細に調査し、どのような目的で築かれたものであるのか、その正体に迫りたいと考えています（発掘調査中は常時公開）。



土手状遺構を補強していた板材と杭

※中心域：青谷上寺地遺跡で、弥生人の活動の中心となっていた微高地